

財団だより

多摩川

1998.12 第80号



ノウサギ (ウサギ科)
体長43～54cm。耳の長さ約
10cm。河原の草地に住む。



多摩川癒し研究会「川遊び」に参加された人々（'98.8.8・多摩川兵庫島公園）

■多摩川現風景■

(36) 川は人を癒す

都市のなかで、まとまった空間や、水辺を「川」にもとめるのは、人の心情としてごく自然な事である。誰でも、河原にでて、ほっとした気持ちになり、心がやすらぐのを経験したことがあると思う。川には「癒しの効果」がある。

今年の夏、「多摩川癒し研究会」により、障害者の方と健常者の方が一緒になっての、川遊びのころみが行われた。「ゴムボートによる流れ下り（ラフティング）」、「浮き輪による流れ下り（チュービング）」、「釣り」などをおこない、活動前、活動中、活動後の心理的な健康感の変化をアンケートした。その結果、川には、たしかに「癒しの効果」があることが判明した。

これからも川の「癒しの効果」を体験する機会の少ない障害者の方と健常者の方が一緒になって、川遊びの試みが続けられる。市民、行政、企業、医療関係者などいろいろな分野の方が参加してのこれらのころみは注目される。パリアフリーのよりよい川づくりを模索するこれら

の試みは、急速な高齢化社会を迎えている現在、もっとも必要とされているものである。誰でも容易に川に近付くことができ、安全に川を楽しむことができるような川づくりが求められている。多摩川だけでなく、荒川でも「福祉の川づくり」というころみが始まっている。これも意図するところはまったく同一である。

●関連する財団の研究助成

〈一般研究〉

- ①玉川上水系の用水流域住民の意識調査および水辺レクリエーションに関する調査
1988年 小坂克信 八王子市立第三小学校 (No.69)
- ②河川の学習機能に関する研究—多摩川及び横浜市内河川における子どもたちの活動をケーススタディとして
1991年 並木直美 よこはまかわを考える会 (No.73)
- ③野川における児童（親子）の水遊び場、川遊び行動についての実態調査
1996年 尾辻義和 野川で遊ぶまちづくりの会 (No.102)
- ④多摩川における環境体験とインターネットを活用したコミュニケーションに関する調査研究
荒木 稔 たまがわネット 幹事 (現在 研究中)

多摩川散歩

■東京の里山・横沢入 イラストマップ■

ムササビの会事務局 福田 教将

里山ってというのは、昔から人間がくり返しくり返し利用してきた丘陵地や雑木林で、そう、薪や柴をとったり、炭をやいたり、落ち葉を肥料にしたり…。田んぼの水だってヤマからの湧き水だった。だから「里山」って雑木林だけでなしにそれに続く水田、ため池、水路、集落なんかも含めた言葉なんだ。横沢入は、そんな所なんだよ。せいぜい63haぐらいの盆地状の湿地帯で、周囲を250m～300mの丘陵で囲まれている。でもネ、よく調べてみるといろんな生物がひしめきあって生きているのさ。それからネここは「伊奈石」という石材が切り出されてきた貴重な遺跡群もあるんだ。

私たちの会は、以前からこの横沢入が好きで、大切に思ってきた人たちの集まり。何とか保全できないだろうか、と声をかけあってできたんだ。1年を通じて、いろんな人が来るよ。散歩、調査、遊び、

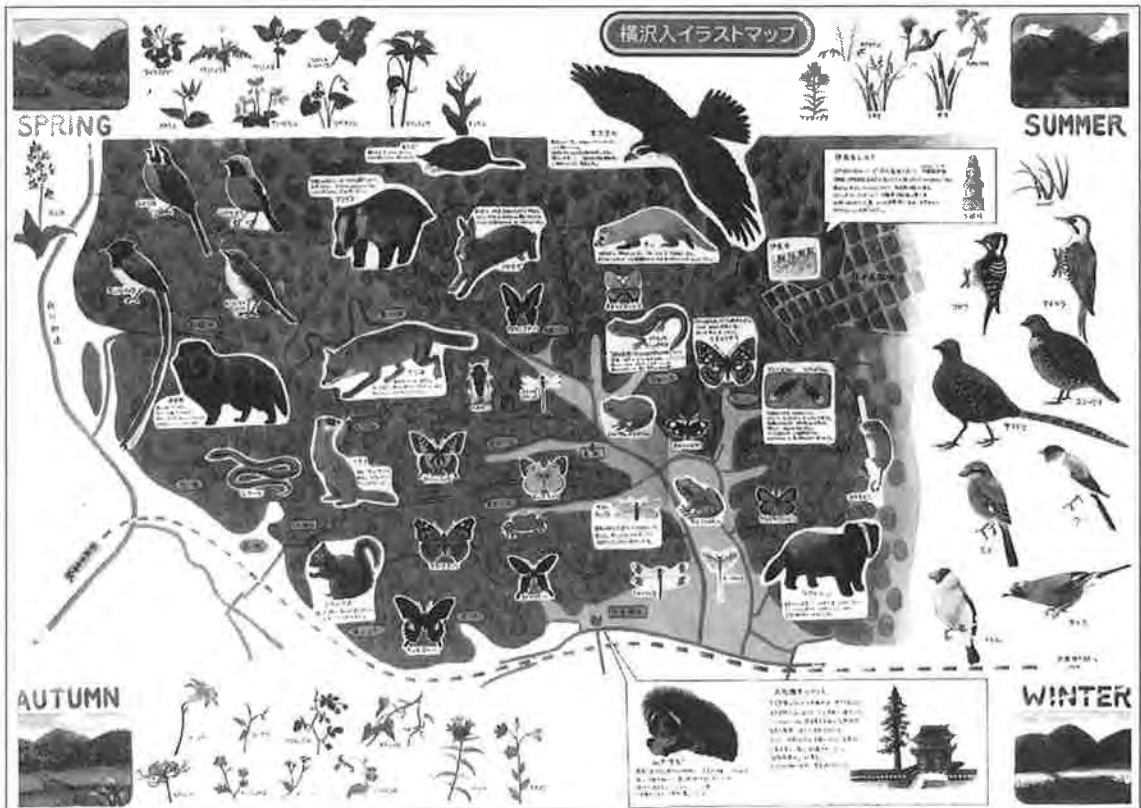
観察会、絵かき、遠足、大学の実習、稲作……。ところが、ここで何年も稲作を続けてきた地元の農業者の方々が高齢になったり作った米がなかなか売れなかったりで、1人を除いて離農。ちょうど10年前になるかな、バブルで土地や株が急騰していたころ、高級住宅開発計画が持ち上がって、事業者もある大手企業に決まってしまった。そしてバブルがはじけた。でも計画は生きているので、私たちは多くの人々に横沢入を知ってもらい、足を運んでそのすばらしさに気づいてほしいし、保全についての理解をお願いしているわけなんだ。そこでイラストマップの登場。表はカラーで、当地で確認された動植物の紹介。裏は、交通案内や横沢入の魅力、四季などの解説や歌。B2版。ぜひ、ハイキングのお供に連れて行ってください。

■お問い合わせ：〒190-0161 あきる野市入野63-3

ムササビの会事務局 福田 教将

☎・FAX 042-596-3026

■マップ代金：一部500円+送料160円です。



▲「横沢入イラストマップ」

私と多摩川



手作りいかだ下りの「アドベンチャ in 多摩川」
(’98. 7. 19・第三京浜橋の下流付近)

世田谷区青少年委員会 柴崎ヒサ子

丸子橋から二子玉川方面に向かって左側にゆったりと流れる多摩川を見ながら遠くに丹沢の山波を臨む景色が気に入っています。特に夕日が丹沢に沈んでいく夕暮はなかなか絵になると思っています。春のやわらかな陽射しの中でゆっくりと緑が濃くなっていく多摩川、真夏の太陽の下での川遊び、秋、一面にゆれるすすきの風景は世田谷にも自然がこんなに近く手に届くところにあることを実感させてくれます。

多摩川との出会いはあまり遠いものではなく、地域活動や青少年委員活動をするようになってからで、子どもたちと川遊びやハイキングなどに出かけるようになり自然に暇ができると多摩川に出かけるようになりました。

カヌーやボート下りなどの楽しみも覚え、多摩川では多くの人が幅広い形で水に親しんでいることもわかり驚いています。

世田谷区青少年委員会では世田谷の恵まれた自然を生かし、子どもたちが郷土に親しみ愛することができるように願い、環境にも目を向け、豊かな自然体験の機会を提供すると同時に、この事業を通して地域における青少年の健全育成の活性化をはかることを目的として「アドベンチャ in 多

摩川」を企画しました。

開催場所は多摩川遊園と多摩川。

内容は川部門のいかだ下り大会と緑地部門の多摩川周辺を生かした自然体験。

運営に当たっていかだ下り大会は今まで経験がなくはじめての企画のため、実施に向けて準備しなければならない事が山積みでした。先ず多摩川を知ろうということからはじまり、多摩川に出かけ、地形や水深調査、水の流量や速さの調査、いかだ下り実施場所の選定などのために晴れた日、雨の日よく多摩川に出かけていったものです。多摩川の源流の地、小菅村の源流まつりにも参加し、源流を訪れることも出来ました。1滴水から太平洋まで138kmの流域をもち多くの人がそれぞれの地域で親しみ楽しんでいて、多摩川を通して、活動している人達は皆仲間のような気がします。

夏には狛江古代カップいかだレース大会に参加し、手作りいかだで参加者の気分を味わいながら、いかだレースについて学ばせていただいた。狛江古代カップ実行委員会の皆様のご好意で運営面などの助言をいただき、開催できたと感謝しています。

参加した36チームはアイデアと工夫を凝らし、作られたいかだが勢揃いしました。参加した子どもも応援団の子どもや大人も、やる気満々で若さのエネルギーでいっぱいでした。ゴールした子どもたちの顔は何か一つやりとげた満足感のようなものが感じられました。

参加した子どもたちの感想から「疲れたけど楽しかった」「来年もぜひ参加したい」「川の中は気持ちがよかった」「風になった」などたくさんうれしい声をいただきました。

こうして無事実施できたのも川のサポート、緑地でのサポートなどたくさんの団体の協力、支援があったからこそと感謝しております。

多摩川がこれからも子どもも大人もいつでも、気軽に楽しむことができる川であってほしいと思っています。

よみがえ

甦れ！多摩川

■ 醍醐川を歩く ■

(浅川合流点～醍醐川上流端)

醍醐川は延長3.8キロの短い一級河川である。陣馬街道が落合橋でY字に分岐しており、左に行くと案下川に沿って陣場高原へ向かい、右にゆくと醍醐川に沿って、醍醐峠を経て和田峠へと向かう。今回は浅川との合流点（落合橋）から、上流端である「ににく橋」へと歩いた。

落合橋の手前に、「夕やけマラソン大会」に伴う交通規制の立看板が出ている。区間は川原宿交差点から落合橋（関場）と書かれてある。

このあたりの紅葉はたいへん美しい。風がふくと、落ち葉が川にふりかかると。恩方第二小学校を右に見ながら進む。

漁協の入漁期間の告示の看板が木にかけてある。4月の第一日曜日より9月30日までと記されている。「入漁証がないと、釣りはできません」とも記されている。

山が迫っているのも、日陰が多く、冷え込みがきつい。「落石注意」の看板も目立つ。小川橋から見る川は清流といえる澄んだ流れである。右岸には小川マス養殖場があり、ニジマスや、山女魚の養殖が行われているようだ。右岸側の山の傾斜はほとんど植林であり、左岸側は、畑、雑木林に囲まれたのどかな里山の風景が見られる。ところどころに「12cm以下のヤマメ、マスは放流してください」という掲示が出されている。

森久保橋で側道は右岸にうつる。しばらく行くと月見橋に到着する。瑞雲山龍泉禅寺はこの橋のむこうである。

にしけいとさわ橋に着く、左岸の山からは沢が流入しておりこの沢のひとつがにしけいと沢である。にしけいと沢ぞいに林道益掘線が登っている。

このあたりは狩猟禁止区域であり、水源かん養保安林でもある。水資源を養い、災害をふせぐとともに自然の美しさを保つ目的があることが記されている。醍醐川の両岸のいくつもの沢から流れが流入している。左岸側にシゲト沢、ナラウ沢、カケン沢、コヤノ沢、右岸側にはヨーグラ沢、クヌギ沢、ズサ沢、などである。

沢の流入する場所のかたわらに、掲示板が出ている。「この沢は水道の取水口になっていますので、次の行為を禁止します。」

記

1. 沢ガニ、魚、植物等の採取

1. ゴミの投棄

1. バーベキューを行うこと

1. その他、水の汚濁となる行為

このあたりの道には、街路灯が一定間隔で設置されており、日陰の場所ではセンサーが動作するのか、白昼まばゆいばかりに点灯しているのは不思議な光景である。

土砂流出防備保安林である右岸の山の傾斜から、桶が出ており、ポリタンクで水を汲んでいる人がいる。「琴の沢湧水」、八王子の名水だそうである。

お地藏さんがあり、お餅とお花が供えてある。この辺りは急坂で、降雪路面凍結時には、走行注意が必要である。

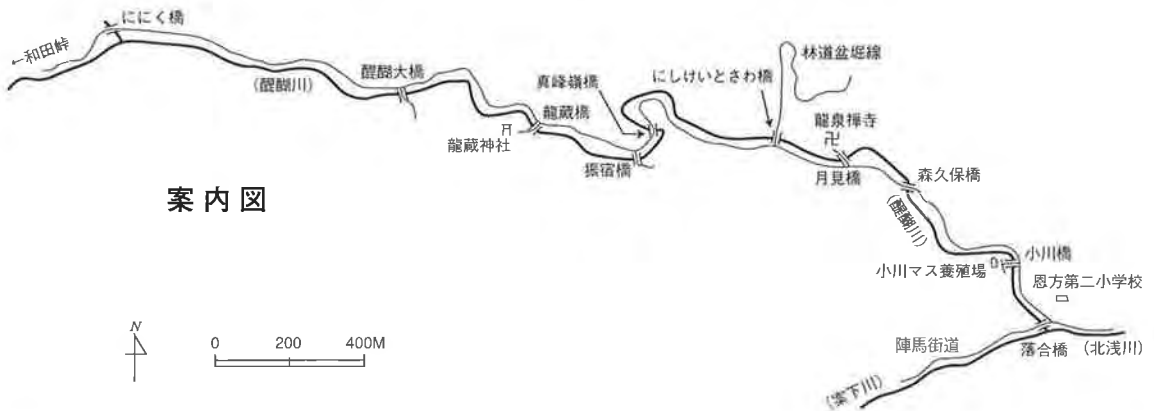
ゴミの不法投棄が多いのか、「この場所にゴミをすてたものは処罰されます」、「この場所はゴミ捨て場ではありません。ゴミはお持ち帰りください」などと掲示している。

真峰嶺橋につく。このあたりは河床は白みがかった硬質の岩石が転がっており、水が泡立ちながら流れている。川の両岸からの木立の茂みが厚く流れが底に、わずかに見える。

山が両側から迫ってきているので、なにか壺の底を歩いていて、空を見上げているような感じがする。「山女魚あります」という看板が民家の入口に出ている。

振宿橋を過ぎ、龍蔵神社につく。龍蔵橋の欄干は銅板が張っており、住民の神社に対する、思い入れが感じられる。鳥居をくぐりお参りする。境内に殉国忠霊碑がある。碑の裏側の碑文を読む。西南の役から大東亜戦争までの戦没者を奉ってあるようだ。あまり大きくはないが、なかなか味わいのある神社である。

醍醐大橋の手前で川越しに材木の山出しをしている最中である。目どおり40cmくらいの太さの杉をチェーンで吊り上げ、車に積んでいる。林道醍醐線の起点を過ぎ、しばらく行くと上流端の「ににく橋」に到着する。

かわせみ
翡翠

首都圏における多摩川およびその流域の環境浄化に関する 基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究、募集

財団法人とうきゅう環境浄化財団（会長 横田二郎）は、昭和50年度より多摩川およびその流域の環境浄化を促進するために必要な研究を毎年公募してきました。既に359件の研究に助成金を交付し、283件の研究成果が完成しています。

平成11年度も従来と同様、意欲的な研究を募集いたします。

記

1. 研究対象者

学識経験者の方はもちろん、一般の方でも研究に意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

2. 研究対象テーマ

- ① 産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
- ② 排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究
- ③ 多摩川およびその流域における水の利用に関する調査、試験研究
- ④ 多摩川をめぐる自然環境の保全、回復に関する調査、試験研究

3. 応募方法 当財団所定の申請用紙をご請求され、学術研究・一般研究いずれかを選択して、ご申請下さい。

4. 助成の決定 平成11年3月の当財団選考委員会にて選考のうえ、理事会で決定。

5. 研究の種別

研究の種別	学術研究	一般研究
研究の性格	環境問題改善のための調査研究で、専門性が高く、その分野の学識経験を必要とするもの。	環境問題改善のための調査研究で、一般の市民が、特別の学識経験を必要とせず取り組めるもの。
	(財団の過去の事例を参照)	
1件当たりの助成金総額の上限額	600万円	300万円
単年度の助成金上限額	300万円	150万円
研究期間	最長3ヶ年	最長3ヶ年
助成対象費目	(1) 器具備品費 研究に必要な機器（装置）、器具、備品等。研究機関（大学等）に所属されてる場合は、原則対象外。 (2) 消耗品費 調査研究に用いる各種材料、部品、薬品等。 (3) 旅費 調査研究のための交通費、宿泊費等。 (4) 謝金 調査研究のために臨時に雇った人の謝金等。 (5) その他 機器・備品等の借料、通信費、会議費、その他。	

6. 公募締切日 平成11年1月18日

※応募についての詳細は、次頁の財団事務局にお問い合わせ下さい。

▶▶▶ 寄贈文献の紹介 ◀◀◀

・「河川の親水利用における安全対策の総合的研究」
 (財)余暇開発センター 1998年

・「きらめく川たち」
 著者 岡村直樹 1998年 (株)心交社

本書は河川の親水利用と安全管理について、河川の利用者として舟宿主人、カヌーイスト、つり人、小学校教諭等、管理者として行政担当者、河川整備の専門家が各々論じ提言されている。

本書は著者が国内の一級河川109水系を踏破したなかで、四万十川、多摩川など15河川で知り合った人達の対話やエピソードも取り入れたロマンあふれる紀行文である。

第12回「多摩川実査」を終えて

10月29日、財団主催により、恒例の「多摩川実査」が行われた。現地を見て、その時々が多摩川を確認する、いわば「多摩川フィールドワーク」とも言うべき行事である。昨年に引き続き、多摩川流域の湧き水のいくつかを見ることとした。昨年は、中流域の「拝島段丘」、「青柳段丘」、「日野段丘」などの湧水をみたが、本年は「はげ」といわれている国分寺崖線と、野川に沿っての湧き水のいくつかを見ることとした。国分寺崖線は国分寺市、小金井市、三鷹市、調布市、世田谷区に連続する河岸段丘である。大岡昇平の「武蔵野夫人」の舞台ともなり、その自然は、人を感動させるものがある。市民、助成研究者、財団選考委員、行政関係者からなる23名の人々は、西国分寺駅に集合、マイクロバスで現地へ向かった。

野川の環境保全の活動を長く続けられ、「水とみどり研究会」の会員でもある金子博さんが、わざわざ現在のお住まいである山形の地から駆けつけてくださり、案内役をかってくださった。

金子さん、本当に有り難うございました。

今回の踏査地点は次のようであった。

真姿の池～お鷹の道周辺（国分寺市）

今年は雨が多かったせいか、豊かな水に恵まれきれいな流れを見ることが出来た。遊歩道がたいへん良く整備されている。歩きながら、金子さんより国分寺崖線、野川についての説明を聞いた。

日立中央研究所内湧水（国分寺市）

通常は公開されていないが、日立製作所の特別なご好意により見る事ができた。量といい、全体の面積といい、すばらしい湧き水である。企業の所有地であるが故に、かえって、乱開発から免れ、今日の姿をとどめているのであろう。

蛍の里・湿生花園（三鷹市）

湧水はそれほど多くはないが、わさび田が最近まであった場所もあり、湿地を市民の憩いの場所として生かしている。

深大寺の門前そばで昼食をとり、徒歩で5分ほど歩いて都立農業高校農場をお伺いした。

都立農業高校農場（調布市）

国分寺崖線の谷戸が、広大な敷地全般をみごとに立体感のある自然となって広がっている。

ちょうど谷にあたる部分は、豊かな水が流れ込んだいくつかのプールになっている。鱒や水草を育てている。椎茸のほだ木も水に浮かべられてある。人手が足りなくて、あまり手を加えて整備されていない分、武蔵野の原野の風景が随所に残されていた。

神明の森みつ池周辺（世田谷区）

ここは、現在一般に開放されておらず、金網の外から、雑木林の斜面から流れ出た水が崖の下に溜まっている池を覗き見た。

岡本公園（世田谷区）

ちょうど池の清掃のため、水を干しているところで残念であったが、季節には蛍祭りがおこなわれるそうで、祭りの時の賑わいを想像してここを去った。

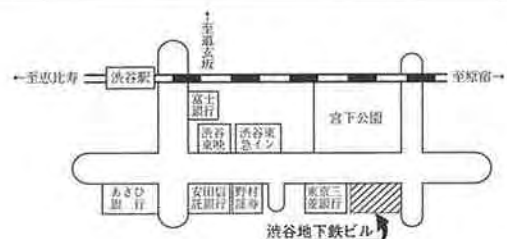
旧小坂邸など（世田谷区）

日本家屋の良さが満喫できる邸宅であり、現在一般に開放されている。敷地は広大な起伏を伴った庭園になっており崖線の良さがうまく生かされている。

すっかり暗くなったころ、二子玉川に到着、懇親会が行われ、参加者の交流が楽しく行われた。

蛸 翠

- 発行日 平成10年12月1日
- 編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)
TEL (03) 3400-9142
FAX (03) 3400-9141



*印刷所 雄文社 〒336-0001 浦和市常盤9-11-1 TEL (048) 831-8125